

空中写真に見る昭和基地60年の変遷

1957年1月30日撮影（第1次隊）

1957年1月29日、オングル島に上陸した観測隊は、基地を「昭和基地」と命名しました。この空中写真は上陸の翌日に撮影したものです。このあと、急ピッチで4棟の建物を建設し、11名が越冬しました。

1969年1月16日撮影（第10次隊）

大型の観測船「ふじ」（1965-1983）の就航により、安定的に物資が輸送できるようになりました。建物はまだまだ少ないですが、現在に続く基地の骨格が形成されつつある様子がうかがえます。

1992年1月17日撮影（第32次隊）

「初代しらせ」の就航（1983-2008）により、人員・物資輸送量が大幅に増加しました。これによって、昭和基地は飛躍的な発展を遂げます。直径11mの多目的アンテナをはじめ、現在も現役で活躍するさまざまな観測施設が建ち並ぶ様子が空中写真で確認できます。

2016年2月3日撮影（第57次隊）

1993年に完成した「管理棟」をはじめ、昭和基地の主要部分が新しくなっている様子がわかります。これによって、基地での生活の快適さが大きく向上しました。また、近年では太陽光発電や風力発電など、自然エネルギーを上手に活用するための施設の建設が進められています。